

はに『魅力ある学校をめざして2』

令和2年8月19日

「子どもたちにとって楽しい学校ってどういうことかな」
「みんなで何かする、それが楽しいかどうか」
「わからなかったことが、わかるっていうことかな」
「失敗してもいいのが教室」
そんな声が飛び交う。ある小学校の検討会議の様子です。



質問	回答	あてはまる	どちらかといえばあてはまる	どちらかといえばあてはまらない	あてはまらない
ア	学校が楽しい				
イ	みんなで何かするのが楽しい				
ウ	授業に主体的に取り組んでいる				
エ	授業がよくわかる				

検討には、子どもたちへのアンケートの結果も参考にします。先生方の願いは、全ての子どもたちが、全ての項目で「あてはまる」と答える、そんな学校をつくることです。

アンケートは、予想通りの結果になる項目もあれば、そうはならない項目もあります。予想とのズレが大きいほど、先生方の議論は白熱します。

「『あてはまらない』を減らすにはどうしたらいいかな」
話し合いは次のステップへ進みます。

「子どもが主体的な授業をつくりたい」

「係活動も充実させたい」

「もっと子どもたちが主体的に考えられるように」

「全体と個のバランスを考えて、モチベーションが上がるような工夫はできないか」

「失敗も認め、励まし、自分らしくいていいんだと思って欲しい」

子どもたちの名前が飛び交い、その姿を思い描きながら、終始笑顔が絶えない対話。あっという間に時間が過ぎていきます。

「子どもたちが、『明日は〇〇が楽しみ!』と思うような学校にしたい」



「魅力ある学校とはどのような学校だと思いますか」
子どもたちに聞きました。
子どもたちの答え

「先生たちの仲がよい学校」

『はに』はコミュニケーションツールです。みんなで語り合しましょう。
ご意見・ご感想は → inochi4027@pref.kanagawa.jp

この学校は「魅力ある学校づくり調査研究事業」に取り組んでいます。この事業は、新規の不登校を生まないために、国立教育政策研究所が委託する事業。この調査研究では、子どもたちに4つの項目を聞くアンケートを実施し、子どもの声に耳を傾け、教員が自分たちの取り組みを振り返り、子どもたちの居場所づくりや、仲間や教員との絆づくりをとおして、子どもにとって「魅力ある学校」をめざしていきます。